

アグリ★ルネッサンス

農業経営きょうと

No.89
2013.秋



クローズアップ この経営者！

生産性アップと販路拡大へ即行動！
— 鮮度重視のネギで売上1億円めざせ —

渋谷昌樹さん（八幡市）

チャレンジ 農業法人

“攻めの経営”で後継者を育てる
— 「儲かる集落営農」をめざせ —

株式会社 味歩里（福知山市）

クローズアップこの経営者！
渋谷昌樹さん・愛さん（八幡市）



生産性アップと 販路拡大へ即行動！ —鮮度重視のネギで 売上1億円めざせ—

八幡市

しぶやまさき
渋谷昌樹さん（30）



7月に法人を設立、さらなる経営規模拡大をめざす渋谷昌樹さん

就農して8年、元気な若手農業者から法人経営者へ。渋谷昌樹さんは持ち前の行動力と経営センスで、九条ねぎを柱とした大規模経営に挑戦している。そのキーワードは「強い生産の現場」をつくることだ。

立地を生かし“鮮度で勝負”

（株）渋谷農園の朝は早い。夏場は、夜明けとともに収穫が始まる。3～4人ずつ2班に分かれて作業を



収穫したネギの出荷調製をスタッフが流れ作業で分担する

行い、午前8時頃までに収穫を終えると、作業場での出荷調製がスタート。作業員が1本ずつ外皮をむき、はかりに載せて5～6本ずつ結束（フィルム包装）していく。収穫から調製まですべて手作業だ。

「ネギは収穫後の鮮度低下が早いので、収穫・調製作業は時間が勝負」と渋谷さん。いまの人員体制になった昨年以降、正月三が日以外は毎日出荷を続けている。

父の朋和さん（61）はサラリーマンだったが、祖父母が亡くなって就農。それまでの水稻と露地野菜（ナス、ダイコンなど）に加えて、ハウス栽培を始め、新たにキュウリ、九条ねぎを導入した。

渋谷さんは近畿大学農学部出身。最初から農業をすると決めていた訳ではなく、就活も経験したという。しかし、家の農業を手伝う中で、「消費地に近く、京ブランドの野菜もある。こんなに条件がそろっていて農業をやらない手はない」と決心し、卒業と同時に就

農した。

コンビニ、宅配に販路を拓く

就農後は父とともに、徐々に農地を借りて経営規模を拡大。現在の栽培面積は約8.4haで、主力のネギ(2.5ha)のほか、秋冬ホウレンソウ(1ha)、ナス(10a)、水稲(4.5ha)、ハウスで春秋キュウリ(30a)、万願寺とうがらし(20a)などを生産している。この間、ネギとキュウリ、ホウレンソウは父から全面的に経営を任され、渋谷さんが“経営者”として生産と販売に責任を持つ体制へ移行してきた。

今年7月、(株)渋谷農園を立ち上げた。これを機に、渋谷さんが代表取締役となり、父は専務として市場や店舗への搬送を担当、母のはるよさん(59)、妻の愛さん(31)は取締役として経理や労務管理を分担する。スタッフは、ハローワークなどを通じて雇用し、現在、正社員2名、パート(フルタイム)19人を数える。

主な販路は、府南部地方卸売市場(京印)、JAの直売所、京阪百貨店やイズミヤのインショップ(店内店舗)など。いずれも販売額は伸びているが、さらに先を見すえて、新たな販売先の開拓に取り組んでいる。

大手コンビニチェーン(ローソン)や百貨店系の食材宅配事業者(阪急キッチンエール)との取引は、いずれも自分から“飛び込み営業”した行動力の成果だ。特にコンビニは、東京で開催された経営セミナーに参加して講師のCEO(最高経営責任者)に直接売り込み、店で棚持ちする「鮮度」を武器に取引継続を勝ち取っ



作業の予定を丁寧に説明し、スタッフらの円滑なチームワークに気を配っている。

た。

生産の現場をもっと強くする

渋谷さんが経営者として一番力を入れているのは、生産の現場を強くすることだ。“名人”といわれる生産者がいれば、自分から教を請いに出かけていく。「わずか数年の経験しかない自分が、この道数十年の人との技術の差を埋めるために、どうしても必要なこと」と考えて、関西一円の生産者を訪ね歩く。

「農家は『生産』が出发点。『加工』はあくまでそこから派生した結果にすぎない」。6次産業化に話を向けると、こんな答えが返ってきた。

それは必ずしも特別なオンリーワンの技術を持つという意味ではない。現場のムリ・ムダ・ムラをなくし、誰でもできる当たり前のことを、真似できない程の高

いレベルで実行することを、渋谷さんはめざしている。だから、「現在の課題は、畑の生育管理で廃棄ロスを減らすこと。まず足元を固めることが大切」と言い切ることができる。

「経営を軌道に乗せて、子どもたちの世代においしいものを届けられる会社にしていきたい。そのために、若い就農希望者をどんどん受け入れていきたい」と夢を語る渋谷さん。5年後、10年後の姿が楽しみだ。



渋谷農園の礎を築いた父・朋和さんと。

“攻めの経営”で 後継者を育てる —「儲かる集落営農」をめざせ—



代表取締役の牧晴喜さん

株式会社 味歩里

福知山市

■代表者	代表取締役 牧 晴喜
■設立	2007（平成19）年1月
■資本金	800万円
■経営内容	農作物の生産、農作業の受託、加工販売
■設立	2011年9月
■主な商品	水稻、小麦、小豆、大豆（白・黒）、きゅうり、九条ねぎ 加工品／麴、塩麴、味噌、かきもち

～集落営農から株式会社へ～

福知山市の株式会社味歩里は、下川口地区の8集落によって設立された集落型の農業法人だ。

「今後高齢化が進み農地の荒廃が目に見えている。それを防ぐための受け皿づくりを急がなくては」と、地域農業のリーダーたちが将来に危機感を抱き、平成18年春に法人化促進検討委員会を発足させた。

その後、平成18年度中の発足を目指して駆け足で準備を進め、発起人7人の出資により、平成19年1月に株式会社味歩里を設立。経営の責任者が意思決定を迅速に行うため、あえて株式会社の形態を選択した。

～年間を通じた安定収入を追求～

味歩里が行う事業は、水稻、小麦、小豆、大豆など土地利用型作物がメイン。水稻の育苗やライスセンターの運営とあわせて、前身の下川口地域農作業受託組合から受け継いだもの。



◀きゅうりは地域の特産品

▼経営戦略の柱に九条ねぎを位置づけている





牧晴喜社長（前列右から2人め）とスタッフの面々

現在、水稻9.2ha、小麦・小豆・大豆を4.7ha栽培している。しかし、これだけでは「儲かる経営」にならないため、水稻の育苗ハウスを田植え後に有効活用し、きゅうりや九条ねぎの栽培に乗り出した。中でも、高収益を狙える九条ねぎは、経営戦略の柱として生産拡大に取り組んでおり、現在、露地1haとハウス16棟で栽培。今後、福知山市全域の学校給食用に供給することをめざすなど、特に力を入れている。

～後継者が育つ経営との両立へ～

会社の舵をとる牧社長は、地域農業を守り育てる会社という理念を大切にしつつ、「会社をつぶしたら理念も消えてしまう」と割り切って、経営の安定化に全力を注いでいる。

社員は20歳代から60歳代までの11人。下川口地区や近隣だけでなく、農業大学校出身の若い社員も雇用している。「儲かる経営を確立して、まずは社員の待遇改善を最優先で実現したい」と牧社長は強調する。儲かる農業法人をつくらない限り、後継者が現れないと確信しているからだ。

収益アップには6次産業化も必要だ。福知山市の中心部に比較的近く、近隣に1,000世帯近くが暮らす団地がある立地条件を活かして、既に自家製大豆と米を

使ったオリジナル味噌を創造して配達を始めた。さらに新しい商品の開発にも取り組む予定だ。

～根っこは「地域の誇り」～

当面の目標は、現在よりも売上を倍増させて、年間1億円を達成すること。そのために、味歩里を支えてくれる地域住民に増資を引き受けてもらい、地域とのつながりをさらに強化したいと牧社長は考えている。

九条ネギの出荷袋にデザインされた福知山大文字は、味歩里の根っこにある「地域の誇り」を物語る。

集落営農をベースに「儲かる農業経営」で地域農業をリードする“味歩里の挑戦”は、集落型農業法人の新たな可能性を切り拓くモデルケースといえる。



下川口地域の水田を守ることが使命だ

農業法人 ニュース

—経営者会議の取り組み—

▲新役員で活動スタート

京都府農業法人経営者会議（会員数：42法人）は、6月28日に総会を開き、新役員を選出しました。新しい役員体制は、以下のとおりです（敬称略）。

会 長＝山田敏之（こと京都（株））

副会長＝酒井省五（（農）ほづ）

大銅美則（（有）丹後ワイナリー）

山崎高雄（（農）日本海牧場）

理 事＝西窪あけみ（（有）クローバーリーフ）

須知 猛（（有）栄光食鳥）

大崎克己（（有）オアシスランド）

牧 晴喜（（株）味歩里）

吉岡正美（（有）フルーツ王国やさか）

監 事＝外田洋一（（農）美山おもしろ農民倶楽部）

塩見 彰（（株）農夢）

顧 問＝岩見悦明（（株）杜若園芸）

▲「交流会サロン」で盛り上がる

京都府農業法人経営者会議は、夏と冬に2回ずつ、府の南部と北部で「農業法人と意欲ある農業者の交流会」（愛称：交流サロン）を開催しています。

今年は、南部サロンを京都市・こと京都（株）で7月8日に、北部サロンを宮津市・（有）丹後ワイナリーで7月18日に実施。参加した農業法人経営者と若手農業者（延べ41名）による活発な意見交換で大いに盛り上がりました。

両会場とも、京都府農業会議と共催で行い、農業総合支援センターの小倉参事が「経営向上と6次産業化に向けた支援」と題して話題提供しました。



新役員を代表して挨拶する山田敏之会長

法人化請負人が応援します！

農業経営の法人化については、初歩的な問い合わせから、具体的な税務・会計・設立手続きの相談まで、税理士の法人化請負人が無料で相談に応じます。

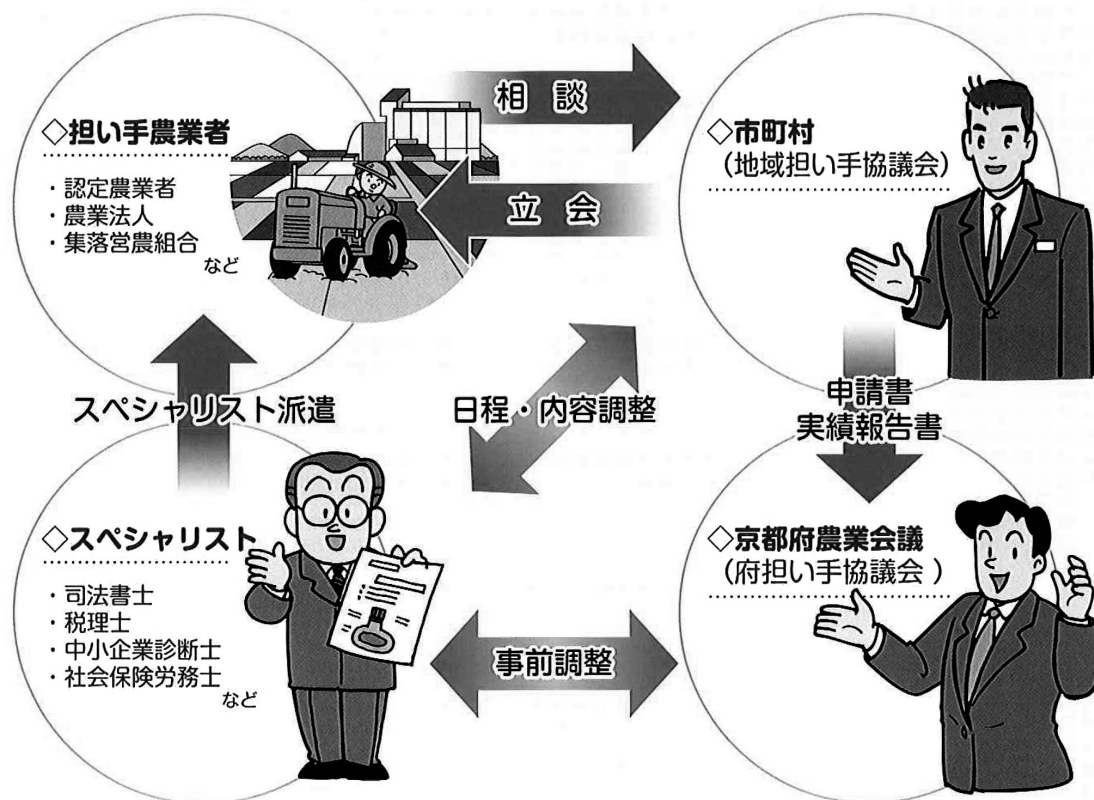
また、集落営農の経営発展については、中小企業診断士の請負人（集落専属コンサルタント）のアドバイスを受けることができます。

詳しくは、京都府農業会議までお問い合わせください（連絡先は最後頁に記載）。

担い手農業者の経営改善をサポート “スペシャリスト紹介制度”のお知らせ

京都府農業会議（京都府担い手育成総合支援協議会）は、認定農業者の経営改善や集落営農組織の法人化の支援等を行うため、中小企業診断士、税理士など30名のスペシャリストを登録し、担い手農業者や関係支援機関に紹介しています。

紹介のしくみ 市町村（地域担い手協議会）からの申請により、スペシャリストを紹介します。



専門分野	氏 名 (50音順)
法人設立手続 (司法書士)	さか いりつこ、た なかひであき 酒井立子、田中秀明
税務・会計 (税理士)	いのうえたかはる、い もとあつし、おくむらかずよし、しの だ なおあき、せきもとこういち、たかおかまさよし、とく だ としひこ 井上貴晴、井本篤志、奥村和義、篠田直明、関本孝一、高岡政義、徳田敏彦、 にし だ さとる、ほそ み ひとし 西田 悟、細見 均
商品開発・マーケティング (中小企業診断士等)	いとう のぼる、おかほらよしとか、なか じ えつ お、なが い としゆき、な ぶちひろ し、まつ い ひろつぐ、まつ の しゅうすけ 伊東 伸、岡原慶高、中路悦雄、長井利之、名瀬浩史、松井宏次、松野修典、 やまわきやすひろ、よこくらこう じ 山脇康彦、横倉幸司
労務管理・人材確保 (社会保険労務士)	いわたまさき、さか ねしろうご、なかにあきら、にしかわ ゆたか、はしもとまさし、やまざきただ お 岩本雅樹、坂根省吾、中谷章、西河 豊、橋本将詞、山崎忠夫
食品加工	ふじもとまさのぶ 藤本正信
直売所経営	かつもとよし のぶ 勝本吉伸
農業融資	はしづめ たかし 橋爪 隆

※スペシャリストの詳細は [京都府担い手育成総合支援協議会](#) ホームページをご覧ください。

農地を守る担い手に期待！

各地で進む「京力農場プラン」づくり

地域農業の将来ビジョンを描き、誰がどんな方法で農地を保全・利用していくか、集落ごとに話しあう「京力農場プラン」づくりが府内各地で進んでいます。

平成25年8月末までに、府内15市町村に64プランが誕生しました。丹後・中丹・南丹・京都・山城から1事例ずつ紹介します。

波路地区（宮津市）

スローガン

安心・安全・こだわり野菜を波路から届ける

取組内容

新規就農者の受け入れを推進し、隣接地区と連携して農地集積を図る。地元スーパー、直売所を活用し、地産地消を推進する。

館地区（綾部市）

スローガン

私たちの夢は、人と農地を守り隊！！

取組内容

地域の法人に農地を集積し、米、小豆、みず菜、茶等による安定的な土地利用と高収益の農業経営をめざす。

安栖里地区（京丹波町）

スローガン

あせらず しっかり 農地を守っていこう

取組内容

地域の農業・農地を次世代に引き継ぐため、他集落との連携や土地利用型作物（水稻、黒大豆）の機械・施設の集約化により、低コスト化や規模拡大を図る。

右京区京北地区（京都市）

スローガン

地域の農地は地域で守る 農業の6次産業化を推し進めよう
美しい田園風景を守ろう 獣害に負けずにがんばろう

取組内容

若手農業者の経営安定と地域への定着を図る。新京野菜やブランド野菜との経営の複合化、拠点施設を活用した農業の6次産業化を推進する。

郷之口・賛田（宇治田原町）

スローガン

農地を守り、調和のある
“お茶の郷”を育てよう

取組内容

認定農業者を地域の中心
的な担い手に位置づけ、
後継者の確保・育成と地域
農業の維持・発展を図る。

◆農業経営の法人化が着実に進んでいます。京都府内の農業法人数は238法人（平成25年3月末時点）、前年度中に31法人増えました。◆「京力農場プラン」の作成も徐々に進んでいます。（株）味歩里のある福知山市・下川口をはじめ、綾部市・館、京丹波町・

安栖里、京都市・右京区京北の各地区では、農業法人が“地域農業の牽引役”です。◆本誌では、次号以降も元気の農業法人を続々と紹介します。ご期待ください。

発行／2013年9月

発行者 京都府農業会議（京都府担い手育成総合支援協議会事務局）

〒602-8054 京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2 京都府庁西別館内 TEL.075（441）3660代